

これからのビジネスで求められる力

# 激変する社会で生き抜くために 「問題解決力」を鍛えよ

牧野 正幸

株式会社ワークスアプリケーションズ  
代表取締役 最高経営責任者(CEO)

Masayuki Makino



かつて日本は、世界一の経済大国として圧倒的な優位を誇った。翻って昨今、新興国の急速な成長に日本の牙城は脅かされ、熾烈なグローバル競争に巻き込まれている。ビジネスの手法やスピードが目まぐるしく変化する環境下で、企業や人材が勝ち残っていくためには、どのような力が必要なのか。大手企業向けERPパッケージ「COMPANY」の開発・コンサルティングを手掛ける株式会社ワークスアプリケーションズの牧野正幸CEOに話を聞いた。

「グローバル経済が進行し、ビジネスの手法やスピードが大きく変わっています。そういった環境で勝ち残っていくために求められる力とはどのようなものでしょうか。」

もはや競争相手は国内の同世代だけではないということに自覚しなければいけません。新興国の人材の優秀さやハングリー精神はすごい。私達ももっと自分に負荷をかけ、ハングリーに能力を高めていかないと、彼らと勝負できません。

これからの時代は過去の「勝ちパターン」が通用しません。既存の手法で解決できない問題が山積していますので、誰でも取得できる資格や知識、経験によって価値を生み出すのは難しくなっています。

でしょう。既存のビジネスモデルや手法が陳腐化しつつある現代において、「問題解決力」こそが世界で戦っていくうえの標準スキルであると私は考えています。

「問題解決力」とは、具体的にどのような力なのでしょうか。」

誰にでもできる簡単な仕事を、私は仕事とは考えません。本当の意味での仕事とは、大きな困難に直面した時に始まります。「困難で複雑な問題だが、解決すれば社会にとって大きな価値を生み出す」そんな仕事に対して真剣に取り組む、これが問題解決です。あえて困難な問題に取り組もうとする人材が、ビジネスパーソンや経営者として成功できる資質があると私は感じています。

「そのような困難な問題を解決するうえで大切なことは何でしょうか。」

どれだけ考え抜くことができるか。とだけ視点を変え、知恵を絞って実行に移せるかがカギといえるでしょう。私はこれを「思考経験」と呼んでいます。いろいろな発想を試して、仮説検証を行い、それを超える発想をひねり出す。その繰り返しで問題解決力を鍛えます。結果問題が解決できなかったとしても、その思考経験は必ず自身の糧となるでしょう。

どんなに知識がある人でも「思考経験」が少なければ、成功パターンをただ繰り返すだけになります。それは本当の問題解決力とはいえず、ルーティンワークの域を出ない。本当の価値を生み出せるクリティカルワークとは言えないでしょう。

「問題解決力を鍛えるためにはどうすればいいのでしょうか。」

ワークスアプリケーションズでは、「works way」という5項目の行動指針を定めています。その中で最も重視しているのは「他責NG」です。これはつまり、失敗の原因を他人や環境のせいにしていないということ。できない理由ばかり考えて、行動に移さない人がいますが、求められる人材はその逆で、どんなに条件が悪くても、どうすれば目的を達成できるかを徹底的に考える。これが根本的に重要な考え方で、ここを避けて通ると、平凡な人材にしかたれません。

もっと言えば、現在顕在化しているチャレンジブルな仕事は、実はそれほどチャレンジブルではありません。本当にチャレンジブルな仕事は、まだ誰も取り組んでいない、解決の糸口が全く見えないような仕事のことです。こういった仕事に臨むことで、問題解決力は鍛えられます。

「これから社会に出る読者へのメッセージをお願いします。」

企業内の競争で生き残るような人材も問題解決の力に優れている人が多い。課題発見力を評価している企業もあります。が、それだけでは難しいでしょう。特に近年は企業も変革を求められていますから、変化の激しいマーケットにおいて自社が抱える問題を解決していくことがより重要となっています。

学生の皆さんに知ってほしいのは、日本のトップ企業に入れば、企業自体はすぐに倒産することはないかもしれませんが、それは社員の安泰と同義ではないということ。グローバル化による外部からのプレッシャーは大きく、企業も常に変化を求められていて必死ですから、ついてこれない人材を余剰に抱えていられる余裕はありません。もし、自分が転職を余儀なくされたとしても、自分で考えて問題を解決できる人材は、転職市場においても評価されます。反対に、その会社のやり方しか知らなければ、転職はかなり厳しいものになります。環境が激変しても、生き残ることができるはず。アメリカを見てみると、ずば抜けて優秀な学生は起業して、その次に優秀な学生はシリコンバレーのベンチャーに行っ

●プロフィール  
株式会社ワークスアプリケーションズ  
代表取締役 最高経営責任者(CEO)  
牧野 正幸 (まさの・まさゆき)

1963年兵庫県生まれ。大手建設会社を経てシステム開発会社でシステムコンサルタントとしての経験を積む。1996年、株式会社ワークスアプリケーションズ設立。日本初となる大企業向けノーカスタマイズ型ERPパッケージソフトを開発・販売。主力パッケージソフト「COMPANY」は人事・給与システム分野ではトップシェアを誇る。

